

学校だより

高松小学校



たかひば

～ひばりのように高く舞い上がれ～



令和8年2月27日

人は人 吾は吾なり

校長 山崎 勝則

「人は人 吾は吾なり とにかくに 吾が行く道を 吾は行くなり」という名言を知っていますか？

この言葉はかほく市（旧宇ノ気町）出身の哲学者「西田幾多郎先生」が、自分の考えに様々な人から批判を受け、心がめげそうになった時に発した言葉だそうです。



それでは、「清水源太郎さん」という方は知っていますか？

この方もかほく市（旧高松町）出身の方で貧しくて高校に進学できなかったことから、電気店を営んで得た私財を、学業が優秀で進学を希望している人たちに分け与えました。いずれにしても自分の力で困難を乗り越えただけでなく、困難に直面している人のために勇気を与えてくれた方々なのです。

私の祖父は西田幾多郎先生にヘアスタイルがそっくりで、ここ最近妹から「あんちゃん、（ヘアスタイルが）じいちゃんそっくりになってきたね。」とよく言われます。

その言葉も尊敬する西田幾多郎先生に一步近づいたのだといいように受けとって喜んでいきます。

小学校の高学年ともなれば、まわりが自分のことをどう思っているのか異様に気にして心をすり減らしがちです。

卒業を目前にして「善悪の判断をしっかりと、周囲を気にせず、自分が正しいと思う道をしっかりと歩んでほしい（by 山崎勝則）」と思います。そして清水さんのように困っている人に手をさし伸ばすことができる人に成長してくれることを願っています。

右の画像、ヘアスタイル近づいてますかね…



熱い心と温かい心が雪をとく

先月、除雪時の児童とのやりとりを「学校だより」で紹介しました。あれから早一か月、今年度の「6年生を送る会&感謝の会」は、コロナ禍以降初めて入場制限のない形で行いました。

一生懸命に感謝の気持ちを伝える姿に、地域の方や保護者の皆様が目を細める光景は、冷え切った体育館をほんのり温かい空気にしてくれました。児童の学校や地域のためにという熱い気持ちと、児童を見守る保護者や地域の方の温かい心のおかげで校庭の雪はすっかり消え、令和7年度も終わりに近づいています。

残すところわずかな日数ですが6年生は中学校に向けて、他の学年は次の学年に向けて不安を弾き飛ばすようなラストスパートを期待しています。

